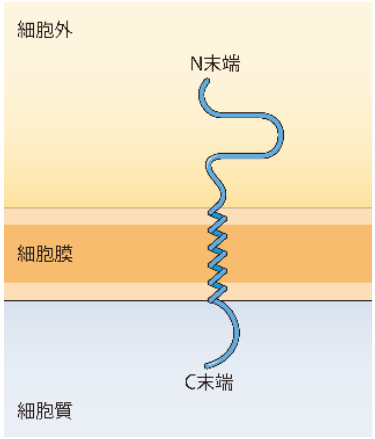
■ 15 章 ■

1. 高濃度の塩分によって膜から除去できるか（膜表在性タンパク質），または脂質二重層を破壊する界面活性剤が必要か（内在性膜タンパク質）によって区別できる．

2.

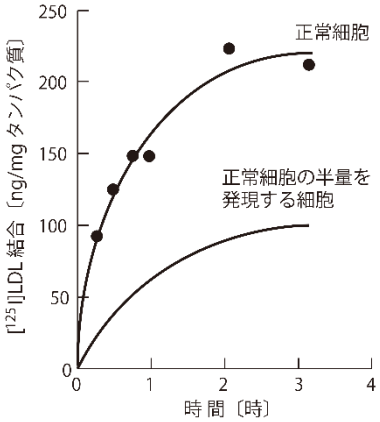


3. 与えられた $C_o/C_i = 10$，ネルンストの式から計算された K^+平衡電位は約－59 mV となる．
4. *mdr* 遺伝子は，がん細胞で頻繁に過剰発現する ABC 輸送体をコードしている．輸送体はさまざまな薬剤を認識して細胞から排出し，化学療法薬に対する耐性を付与する．したがって，MDR が過剰発現しているがん細胞の場合では，ABC 輸送体の阻害剤は化学療法薬に対する感受性を高める可能性がある．
5. ファゴサイトーシスは，アクチン依存性の細胞膜伸長を必要とするために，アクチン重合の阻害によって抑制される．クラスリン依存性エンドサイトーシスはアクチンとは無関係であり，影響を受けない．
6. 高分子の濃度を増加させて細胞に追加し，結合が飽和するかどうかを判断する．これから，結合部位の数が限られていることが示される．
7. 受容体からのリガンド解離は初期エンドソームの酸性 pH に依存しているので，受容体のリサイクルリングは抑制される．

Molecular Medicine　嚢胞性線維症

有効とはならない．単一の塩基対を欠失すると，フレーム外のタンパク質が生成され，小分子の薬剤ではもとに戻せない未成熟な翻訳終結となる．

Key Experoiment　LDL 受容体



データ解析問題 15　腎細胞におけるアクアポリンの局在化に対する抗利尿ホルモンの効果

1．Myc タグ付けによって，プラスミドから過剰発現したアクアポリンのみを可視化することが可能になる．内因性アクアポリンタンパク質にはこのタグがないため，実験では可視化されない．

2．未処理の細胞では，アクアポリンタンパク質は細胞質，おもに細胞の核の周りに局在している．

3．ADH 処理の結果，アクアポリンタンパク質は細胞膜に局在する．